

## 令和2年度（2020年度）第5回つくば市行政経営懇談会

日時：令和3年（2021年）2月26日（金）

18時00分から20時00分まで

会場：つくば市役所2階 防災会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 事

（1）令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

（2）スーパーシティ基本方針について

#### 3 その他

#### 4 閉会

#### 【配布資料】

- |        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| ・資 料 1 | 令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）    |
| ・資 料 2 | スーパーシティ基本方針への市民意見について            |
| ・資 料 3 | スーパーシティ構想概要資料                    |
| ・資 料 4 | スーパーシティ基本方針スライド版                 |
| ・参考資料1 | 令和2年度（2020年度）第4回つくば市行政経営懇談会会議録要旨 |



つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について（提言）（案）

令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会において、つくば市行政経営懇談会設置要項第 2 条の規定に基づき、つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について協議しましたので、懇談会から別添のとおり提言します。

令和 3 年（2021 年）3 月 日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会委員

座長 溝上 智恵子

委員 飯田 哲雄

委員 上田 孝典

委員 上平 未枝

委員 佐藤 毅章

委員 白倉 誠子

委員 永田 孝行

委員 星埜 祥子

委員 堀 賢介

委員 水谷 浩子

## 1 つくば市市民参加推進の経緯

つくば市では、平成30年3月に「つくば市市民参加推進に関する指針」を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の4段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参加することとした。

当指針では、市民参加推進の取組が効果的に実施されているか懇談会にて検証し公表するとしており、令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では「令和元年度（2019年度）つくば市市民参加推進状況報告」等を踏まえ、つくば市が目指す市民参加に向けて協議を行った。

## 2 懇談会開催日程

第1回懇談会（委員9名出席）

令和2年（2020年）10月9日（金）15時00分～17時00分

つくば市役所コミュニティ棟3階 会議室A

第2回懇談会（委員10名出席）

令和2年（2020年）11月16日（月）18時00分～19時30分

つくば市役所コミュニティ棟1階 会議室2

第3回懇談会（委員10名出席）

令和2年（2020年）12月18日（金）14時00分～15時30分

つくば市役所2階 会議室201

第4回懇談会（委員10名出席）

令和3年（2021年）2月5日（金）18時00分～20時00分

つくば市役所2階 職員研修室

第5回懇談会（委員〇名出席）

令和3年（2021年）2月26日（金）18時00分～20時00分

つくば市役所2階 防災会議室

## 3 現状と課題

「令和元年度つくば市民意識調査」の「市政に市民が参加できる環境が整っていると思うか」という問いについては、前回の平成29年度調査と比較して

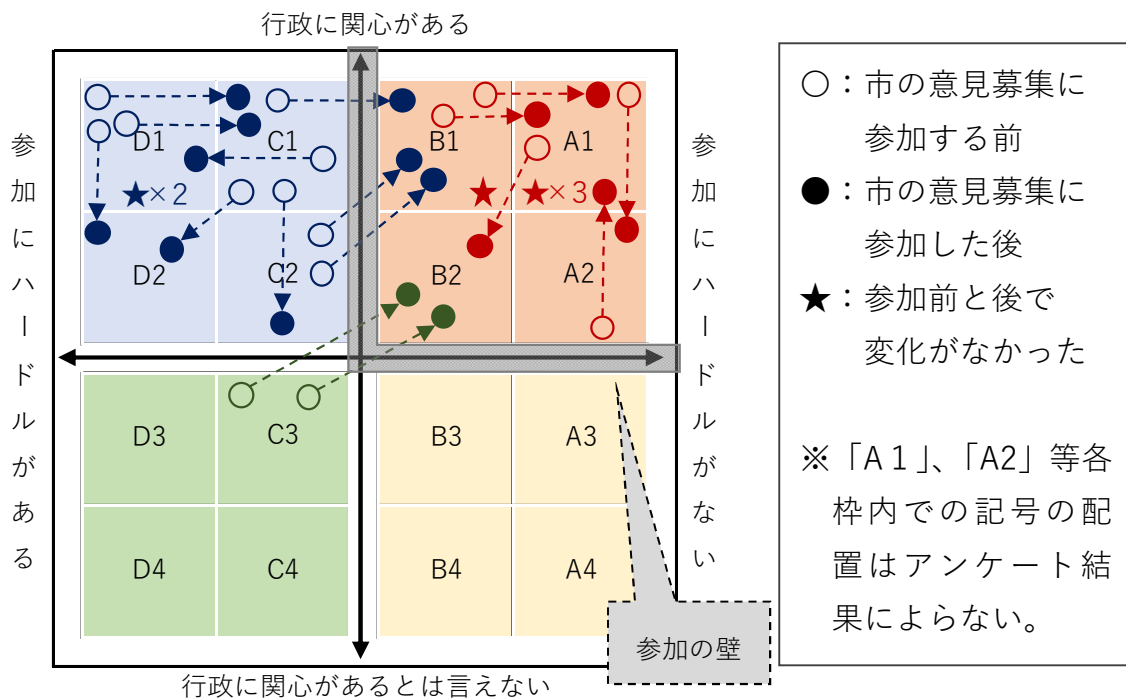
「そう思う」が1.7%、「どちらかといえばそう思う」が1.5%増加という結果となり、市民参加推進の取組の一定の効果が得られていると考えられる。

一方で、令和2年（2020年）11月に市民委員経験者や市民委員意見交換会参加者を対象として実施した「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」では、市民委員等で参加する以前に市政への参加に対して「ハードルがあった」、「どちらかというハードルがあった」と回答した人の割合が59.1%であり、回答者の半数以上が参加にハードルを感じていたほか、少数ではあるが、9.1%が参加以前は市政に関心を持っていなかったと回答した。

より多くの市民の市政への参加に当たっては、参加に対するハードルを感じている人や行政に関心があるとは言えない人といった「参加の壁」を越えられない層に向けた取組が必要となる。

【図1】

「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」結果



#### 4 検討

令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では、つくば市が目指す市民参加に向けて「参加の壁」という課題を解決するために、主に審議会等の

市民委員の参加について、協議を行った。この協議を踏まえ、特に「①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進」、「②若い世代の参加者の拡大」、「③審議会等市民委員の応募者数の増加」の3点について、つくば市における市民参加をより一層推進するための対策を次項のとおり提言する。

## 5 提言

### ①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進

- ・各審議会等は市民委員の選定に当たり、会議の内容、性質を踏まえた上で、積極的に無作為抽出による委員等候補者名簿を利用されたい。
- ・住民基本台帳から無作為抽出をした市民に対して送付する委員等候補者名簿登録依頼については、抽出された市民が市政への参加を前向きに考えられるような様式、文面を検討されたい。
- ・委員等候補者名簿登録同意書の希望分野を問う選択肢に「全ての分野に関心がある」、「どの分野でもいい」等の項目を追加されたい。
- ・各審議会等の目的や性質等に応じ、ジェンダー、年齢層、居住地等を考慮して市民委員を選定されたい。

### ②若い世代の参加者の拡大

- ・若い世代を対象とした情報発信の手段として、広報紙やチラシ等、既存の媒体に加えて積極的に SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用するなど、多様な方法による広報活動に取り組まれたい。
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。
- ・会議の開催形態として、対面に重きを置かないオンライン会議やハイブリット形式等も取り入れられたい。
- ・若い世代の市政への関心を深め、参加を広げる取組として、審議会等の模擬体験を中学校等への学校教育に取り入れられたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。

### ③審議会等市民委員の応募者数の増加

- ・各審議会等の所管課等は会議の目的や内容、性質等に応じて、小論文の提出、面接に限らず、参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定められたい。
- ・広く市の審議会等への参加を希望する市民を募り名簿を作成するなど、参加を希望する市民の情報を積極的に活用されたい。
- ・市の審議会等について広く理解してもらう取組として、区会や民生委員など市民にとって身近な地域活動との連携を進められたい。
- ・審議会等では専門用語を用いることがあるが、参加している市民委員や傍聴者、会議録の閲覧者等に向けて市民目線での会議運営に取り組まれたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。(再掲)
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。(再掲)
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。(再掲)

## 6 さらに市民参加を推進していくための意見

そのほか、市民参加をさらに推進していくために、以下の意見が挙げられた。

- ・パブリックコメント手続きの実施、ワークショップの開催等の際には、無作為抽出による委員等候補者名簿を有効に利用し、各分野に興味・関心を持っている市民への情報発信に取り組まれたい。そのためにも、委員等候補者名簿への登録を依頼する文章には、市民委員以外の参加手法により意見を伺う可能性がある旨を記載されたい。
- ・ワークショップ等のイベント開催の際には、申込者を日中働いている人、子育てをしている人等のグループに分け、各グループの参加しやすい日時をそれぞれ設定するなど、可能な範囲で参加を希望する市民が参加しやすいよう柔軟に対応されたい。
- ・パブリックコメント手続きは、市民が対話によって政策への理解を深めることのできる非常に貴重な機会である。市は、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思い、次の参加への意欲につながるように、市民の意見に対して真摯に向き合い、市の現状について丁寧に回答をされたい。

- ・パブリックコメント手続きの意見提出者数などの状況により、市民の関心の高い分野に多くの市民が参加できるような機会を設けることを検討されたい。
- ・職員が地域の現状を十分に理解し、市民にとっては市政への参加に対するハードルを下げる取組として、市の若手職員の地域等のコミュニティ活動参加や市民と職員との交流機会の増加等の工夫をされたい。
- ・参加者を住民基本台帳からの無作為抽出により求める際には、事業の内容や性質に応じて、在住年数や居住地域を限定する等の工夫をされたい。

## おわりに



令和 3 年 2 月 26 日

政策イノベーション部スマートシティ戦略室

## スーパーシティ基本方針に対する市民意見について（途中経過）

## 1 概要

- 第 4 回行政経営懇談会（2 月 5 日）
- 住民説明会（2 月 15 日）75 名参加
- オープンハウス（於イーアスホール）（2 月 11 日、12 日、15 日、16 日、18 日）108 名来場
- 宝陽台区長等（1 月 22 日）
- 小田台区長等（1 月 28 日）

## 2 詳細

種別	意見等	参考（当日の回答等）
行政経営懇談会（第 4 回）	<p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないか。</p> <p>また、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくることも重要ではないか。</p>	<p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということとは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。</p> <p>行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないか。</p>
	<p>まとまっていると思う。言葉については特に気にならなかった。</p>	
	<p>国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。</p>	<p>スーパーシティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。</p>
行政経営懇談会（事後意見）	<p>本当にこのようなインフラが充実され、地域の人的な基盤もしっかりできているのであれば、高齢者として、一人暮らしになっても住み続けられるかな、と思う。</p> <p>ただ、最終的に動くのは普通の「人」だと思う。「地域の人つながりづくり」に行政の力を注いでくださるとありがたい。その場</p>	

<p>合、行政の職員の方たちが、いかに私たち住民を躍らせてくれるか…。そこがカギかもしれない。自分たちがいかに快適に暮らし、それを守るか。そのためには、自分たちが担い手であると気づかなければならない。自治会や区会の代表だけでなく、交流センター利用の団体代表などの声も大事だと思う。</p>	
<p>TX が通る前までは、つくば市民の一部（研究機関などで働く人たち）の中には、退職後は故郷や東京に戻り老後を過ごすつもり、と考えている人たちが多くいた。つくばが人生の最終地ではなかったわけである。でも、TX が開通し、それぞれの駅周辺の開発が進み、公務員住宅跡地に大型マンションが建ったことで、つくばを最終地と考える人たちも増えてきた。</p> <p>もともと、筑波研究学園都市が出来た時から、四本の柱（東大通・牛久学園線・土浦学園線）の内側と旧町村部ではいろいろな差があった。旧町村部では一軒の家のスタンダードな敷地面積は 300 坪であるとか、跡継ぎの若夫婦に子供が生まれれば母屋は若夫婦が住み、先代は隠居所（と言っても立派ですが）を建てて移る、など。当時、移住組にとって大きな驚きであった「七五三のお祝い」にもそれなりの意味があったと聞いている。それは、実は地域づくり、地域教育の一環であったのだと、今になって気づく。</p> <p>地道に粛々と続けられていたことを、ただ「合理的でない」とか「時代錯誤だ」「都会ではそのようなことは…」などと言って、その奥に実は大事なことが隠されていたことに気づかず、うっかり勘違いをしたまま、捨て去ってきたように思う。</p>	

<p>あの頃にあった地域とのつながりを、少しずつ修正をしながら街づくりを行っていれば、ここに書かれている「地域の課題」「課題解決の模索」もあえて書く必要はなかったかもしれない。</p> <p>新しい解決策を探す前に、まだ、もしかしたらしっかりと続いている地域活動を掘り起こし、そこを応援していくことが楽な道かな、と思う。そのような視点で行くと、たぶん「スーパーサイエンスシティ構想」で対象区域に挙げられた「筑波地区の一部」「荃崎地区の一部」は実際的な場所だと思う。</p> <p>ただ、私が住んでいるところ（大角豆南部）も含めだが、自治会や区会組織があるところには、一応「お誘い」「自主取り組み」の声かけをしてくれると良いのではないかなと思う。中途半端な地区、というのも見捨てないでいただきたい。</p>	
<p>科学技術に気負いなく触れることが出来る、知ることが出来る、というのがつくばの良いところであると思う。そして、一般の人が一番身近に感じ、恩恵を受けるものの一つが「医療」だと思う。</p> <p>つい先日、医療での恩恵を受けることになった。以前なら、たぶん毎月病院（この場合は大病院）に行き、診察を受けていたと思うが、今はある程度の期間を過ぎれば、遠隔モニターで様子を見てもらえる。何かあれば、病院や機材メーカーからの連絡がある。たった数分の診察のために長い時間を使う、というのはある意味本末転倒である。</p> <p>「かかりつけ医」をもう少ししっかりとしたものにして、できれば在宅往診制度なども、視野に入れた先端的サービスを考えてもらえるとありがたい。今は「在宅医療」</p>	

<p>という介護や終末期医療と思われがちだが、70年以上も前は、東京でもお医者様は往診してくれるのが当たり前だった。車を運転して、お医者様と看護師さんが気軽に来てくれた。</p>	
<p>子育て世代や若者、外国人居住者に対する支援は、つくばならでの活動が多くある。ただ、一番私が気になっているのは、宗教上の理由で外出せず、地域との交流を避けている（きっとご本人たちは不自由ではないのかもしれませんが）方たちへの働きかけ。</p> <p>政教分離とは言うが、行政もどこかの部分で、同じ宗教を持つ人たち、特に子育て世代の女性たちの交流の場などの支援をしてくれるとありがたい。</p>	—
<p>ドローンを使った配送も、自動運転も、何十年も前に子供たちが描いていた「未来の街」の絵が実現したと思えるだろう。ただ、それを実現するには、電柱をなくし、広い空き地を残し、道路の管理もしっかり行わないと恐ろしいことになる、と思う。</p> <p>絵に描いた餅にならぬよう、そして市民の中の隠れた知恵を上手に引き出して「市民みんなで街づくり」が合言葉になると良いと思う。</p>	—
<p>つくば市になる前、いや、なってすぐくらいまでは、地域の運動会などがあった。学校の運動会も防犯上や高温化などの理由で縮小されている。地域づくりの大切さを言う片方で、地域づくりの場をなくしているのも事実ではないだろうか。東京からたくさんの人を呼び込むような、盛大なお祭りも良いが、地域毎、区会や自治会で行うお祭りや行事をもっと応援することも「街づくり」には大事だと思う。最終的には、どのような</p>	

	<p>ことも市民の力が必要。笛を吹いて躍らせて欲しい、市民を。</p>	
	<p>つくば市に他の地方公共団体に先立って先端的サービスを導入し他の都市との競争に勝ち残っていくという意味合いからも、実施については基本的には賛成。今回の実施に当たっては当初地域を絞って実施されるということだが、市の全体的なイメージアップ、その後他の地域の市民も恩恵を受けられる可能性がある点等も考慮すれば、許容できると考える。</p>	
	<p>他の委員の方もおっしゃっていたが、現段階で市民への負担額の概算・見込みすら示されていないのは疑問に思う。</p> <p>一旦採択され、具体的な費用等が算出されたのちに後日辞退が可能ということであれば構わないが、採択されてしまえばもう後には引けなくなるということであれば、現時点で市民に対して負担額の概算・見込みを示して、現実問題としてほとんど恩恵を受けない可能性もある地域の市民も含めてかかる負担を負うことに問題がないのか意見を聞くということ、これに対して住民合意を広く得ることが、まさに求められているのではないだろうか。</p> <p>なお、その他に実施にあたってのデメリットがあるのであれば、これについても明確に説明を行うべきだと思う。</p>	—
	<p>今回の基本方針にそって先端的サービスが網羅的に実施されることになれば、該当地域の市民にとってはかなりメリットが大きいと思う。もっとも、内閣府のウェブサイト上にある例として挙げられているスーパーシティの例としては「観光」「防災」「健康／医療」「高齢者の交通」など、一見してコンセプト、サービスを受ける住民の恩恵、各サービスの連携内容がクリアだと思う。翻</p>	

	<p>って今回はじめにつくば市の基本方針を拝見したときに、一見して市民の受ける恩恵が分からなかった。また、個々のサービスの関連性、各サービスが有機的に一体になっているということもあまり感じられなかった（私の理解では5つ以上の分野にまたがって相互に連携したサービスを提供することが求められていたかと思う）。国も住民目線でサービスの恩恵が実感できるということを重視している以上、分かりやすさ、サービスの一体性という観点は非常に重要ではないかと思う。</p> <p>ご説明を聞く限りにおいては、高齢者等の社会的に弱い立場にある方への対応に重きを置いた方針なのだと思うので、その点から各サービスを整理して一貫性を説明できると良いのではないかと思った。その点からすると「つくばスーパーサイエンスシティ」という名称も、その名称から一見して目指す中身が良く分からないという点でインパクトに欠けるように思う。</p> <p>今回5都市しか採択されないということなのであれば他の自治体との競争に打ち勝つという点からも他の自治体と異なる際立った特徴、コンセプトが必要なのではないかと思った。</p>	
	<p>4</p> <p>筑波地区の一部と荃崎地区の一部について、ともに高齢者に対応する地域であるにもかかわらず微妙に異なる書き分けがされている。</p> <p>この点の違いによりサービスの内容が明確に異なるのであれば、それを分かりやすく明示すべきであるように思うし、そうでないのであれば、この二地域は一括して表記したほうが分かりやすいように思う。</p>	

	<p>災害情報に関して、ゆうびんや新聞配布といったコミュニケーション網について ICT でどのようにできるかがあったほうが良い。L アラートやエリアメールについて記載があった方が良い</p>	
	<p>先端医療の普及等について、以前、フジテレビでラストホープという先端医療のドラマがあったようだ。</p> <p>医龍など歴史医療ドラマなども過去あったが、こういった広報活動の医療協力も、高齢の方に医療を受信してもらえるモチベーションにつながると思うので、大学と市や国と共同で先端医療の広報の窓口を持つても良いかと思う。</p>	
住民説明会	<p>現在大学3年です。是非、僕の力も使って欲しい。一緒に働かせて欲しい。</p>	<p>スーパーシティに関わらないが、行政だけではなく、色々な人と色々な形でともに作っていききたい。積極的にご提案いただきたい。</p>
	<p>高齢者こそというなら、名称なども極力わかりやすい単語を使用して一見して伝わるようなものを使っていく必要がある。</p>	<p>日本語にできるものはそうしたい。だが、ニュアンスが全く同じにならないものもある。括弧書きなどできる範囲でやっていきたい。</p>
	<p>インターネット投票については、技術的な秘匿性よりも、投票行為に対する秘匿性の保証が難しいと思うが、その辺はどのように担保するか。</p>	<p>誰かに投票を強要されるパターンなどが想定される。再投票できるようにする等の対策を考えている。開票についてはマイナとブロックチェーンを組み合わせて、外部からのアクセスを追跡可能なシステムを構築する予定。</p>
	<p>投票率が低いのは移動手段や時間場所の問題では？インターネット投票で、投票率は上がるのか？</p>	<p>そのような根源的な問題もあるが、総務省の調査では不投票理由の20%が無関心、忙しい19%、体調不良12%、用事10%など。ネット投票の実装で改善できる部分はある。投票に行く意思がある人の環境の問題に対して選択肢を提供する。</p>
	<p>ポータルの問題ではなく、そもそも掲載されている情報の質、掲載の仕方に問題あるのでは。既往技術でも見やすいサイトはある。根源的な問題を解消せず、力技で解決するのは果たして真っ当な課題解消といえる。</p>	<p>必要な情報を必要なタイミングで受動的に受け取れる仕組みをつくる。個人にカスタマイズされた情報を、多言語対応のもので提供する。HP 自体の改善の必要性も感じてはいる。</p>

<p>るのか。</p>	
<p>移動手段がないために投票率が低いということであれば、タクシー券を発行すればいいのでは。</p>	<p>そういう方法もあるが、費用の面でタクシーは現実的ではない。アクセシビリティの多様化。選択肢を増やすことが必要。 ベッドから出れない人もおり、そのような場合にインターネット投票は有効。</p>
<p>インターネット投票をする場合、投票所での投票は廃止か？どちらも並行するのであれば、財政負担は減らないのでは。</p>	<p>併用する。財政負担だけでなく、単に一票の担保する、その選択肢を増やすのが行政の仕事。そこへのコストは必要。過渡期にはコストがかかるが、長期的に見て普及してくれば、既存の事務コストの減少も見込める。</p>
<p>病院の検査データについては全く同感で、共有が可能であれば良いと何度も何度も思った。一方個人データの扱いは非常に難しそうに感じる。</p>	<p>個人データ扱いが難しいのは間違いない。自分のデータがどこで使われているかを把握し、考えることが必要。現場の方ともさらに議論していきたい。</p>
<p>私が知らないだけなのか、いつの間にか進んでいるようで不信感がある。 中国の監視社会みたいで受け入れ難いです。情報漏洩など懸念されるデメリットをご教示お願いします。</p>	<p>伝えきれてないのは申し訳ない。これも課題である。今後もできるだけ丁寧にしっかり説明していきたい。市報以外にも瓦版とかを作って、丁寧な情報発信を心がける。 個人の情報について、本人の同意なしでは使わない。「自分が使いたいサービスを利用する上で、この情報の提供が必要」というものを自身で判断してもらう。 今はまだ、むしろ「本人を本人と特定する」技術がかなり難しい状況。。</p>
<p>アーキテクト（全体統括者）ではなく、全体統括者（アーキテクト）だと思う。</p>	<p>そのような表記にしたい。</p>
<p>日本語であれば分かりやすいというわけではないのでは。「包摂」という言葉はわかりやすいものか。</p>	<p>包摂は確かに難しいかもしれない。もし言い換えるならば、誰もが包まれている社会、誰一人取り残さない社会など。ただ、分からないから、と考えないのは違う。それを考えるきっかけにしてほしい。</p>
<p>一人暮らしの高齢者、スマホが使えない高齢者に対する説明が必要。</p>	<p>1. この説明会に参加できない人への説明という意味であれば、リアル開催の説明会をやる予定だったが延期となった。今後また機会を設けたい。 2. サービスを受ける際の配慮、という意</p>



		味であれば、スマホアドバイザーを設定する予定。
率先して取り組まなくとも、他の自治体で検証され、実装された成果を活用すればよいのでは。		全部を新たに始めなくてもよい。ただ、つくばに限らず持続可能な街づくりが必要であり、その為の実証ができる環境がつくばには揃っているので、いち早く住民にサービスを提供したい。それに対して意見を頂くのも重要なこと。
情報を通知することと、わかりやすいサイトの構築は違うものである。恣意的な情報の通知、情報の秘匿を懸念する。		ご意見として受け止める。
実現に向けて大いに意見を出し合うことが必要と考える。パーソナルモビリティあるいは自動運転車のオンデマンド配車、交通ネットワークの最適化などは道路整備と関わってくると思う。その場合、予算などは国から交付というイメージを描いている。その考えでよいか。		国から予算をもらうことも必要。だが将来的に横展開を考えるとビジネスモデルとして確立するようにしたい。予算も大事だが、やはり個人の幸福の向上のためにどんなお金がかかるのかを議論する必要がある。  予算はいろんな財源の組み合わせになる。国・県の補助を最大限利用する。市の本来業務の部分は市の予算を使う。ビジネスになるサービスは民間主体。
インターネット投票を導入すると財政負担と人的負担が減ると資料にあるが、本当にそうなるのか。		短期的にはコストがかかるが、将来的にインターネット投票が普及してくれば負担は減ると考えられる。過渡期については難しい。
子育て世帯にとって魅力的な提案があまりない。		色々想定しているが、今回の説明の中で触れられず申し訳ない。
セキュリティの不安を払拭するためには、市役所職員の方への全幅の信頼も大切。スーパーシティにネガティブな意見で聞くのは「利便性を謳う代償とする監視社会」を懸念するもの。		情報漏洩、監視社会にならないように最優先で取り組む。連携事業者とも意識の共有をし、しっかりと規定を守ってもらう。  市役所職員も信頼を得られるように頑張ってもらおう。
市内の各地区の交流センターにもスーパーシティ構想の資料を掲示して欲しい。つくバス内に掲示してはどうか。		掲示場所増やせるように前向きに検討する。
個人情報扱うことになる以上、慎重に進めるべきだと思う。一方、内閣府の公募締め切りまで1ヶ月程度であり、十分に議論		厳しいと思うが、ひと月で頑張っていきたいと思っている。説明会も実施できるように尽力していく。

<p>するには時間が足りないと感じる。住民の理解を深め、納得のいく答えを出すため、今回の公募は見送るというのも一つの手ではないか。</p>	
<p>既存集落からの積極的撤退はするべきではないが、マイカー前提で公共交通不便な郊外に広げたところへの技術によるサービスは本末転倒。</p>	<p>意見として承る。</p>
<p>スーパーシティー構想に限らず、今後も説明会を実施する際は対面と合わせてオンラインでも実施してほしい。参加しやすくよかった</p>	<p>他部局にも共有していきたい。</p>
<p>スーパーシティー構想内容にあるものはすでに日本以外では民間が実用化されているのでは。運用及び規制を行政が行えば良い社会ができるのでは。</p>	<p>既に他地域で実装されているものもあれば、そうでないものもある。</p>
<p>世界の明日を見せてほしい。</p>	<p>実現していきたい。つくばの使命だと考えている。この取組をしないと持続的な観点で市民を守れない。特に公共交通や移動について、困っている人が多い。買い物も病院も行けない。ここに対して、新しい技術ができる限り使って、都市経営の中に位置づけてやっていく。</p> <p>まずはオプションを増やすこと。ゼロイチの二元論の話ではない。</p> <p>今回の説明会も、オンラインにしたことでオプションが増えた。ネット投票でも同じこと。同じようにオプションを増やすことで、カバーできる層もある。規制があってできないこと、進んでいない状況がある。それを破って技術を住民に還元し、フィードバックを貰ってより良いものを世界に提供してく。それが使命。</p> <p>これからも対話を大事にしながら事業を進めていきたい。</p>
<p>(事後意見) 1 今後とも定期的に意見・要望を収集して欲しい。現時点ではあまりにも多く</p>	

	<p>の要素が含まれるため、日常との関連の中でとらえるには市民としての学習も必要かと思われる。尚、ここでいう意見・要望は「市民として支援できることはないか」も含む。</p> <p>2 総務省の公開文書を含みカタカナ語が多すぎる。該当または近似する日本語の熟語を先ず使用するよう、お願いしたい。カタカナ語で表記される語は日本語の熟語の後に括弧でくくり配置して欲しい。この場合は他の言語でも差し支えない。この件は、つくば市が単独で書き換えるのは抵抗もあるだろうが、今後多くの市民の賛同を得ながら息の長い活動を進めてゆくためには、避けて通れない事のように思われる。</p>	
<p>オープンハウス</p>	<p>シェアサイクルなど移動手段の選択肢を増やすことは、様々な属性の人たちにとっての移動の機会や自由度をあげることになりよいと感じる。しかし、現状の公共交通（特にバス）において、人口増に見合った便数や路線網が整備しきれていないように感じる。中心部においても、自家用車での移動が必須となる状態では、渋滞の解消や交通弱者の移動しやすい社会は難しいと考えている。様々な交通サービスを実現し、さらに維持していくためには、移動に不自由のない人たちにも自家用車よりもそれらのサービスを利用してもらえるような環境づくりが大事だと思う。東京向きの住民も増える中でより都市的な移動を求める人も増えている。広域移動の手段はつくバス等かなり整備されてきているように感じるが、中心部の短距離、高頻度運行されている区間は大学方面以外ほとんどないのではないだろうか。最先端の技術を取り入れることは、多くの人の不安を解消し、様々なニーズ</p>	

	<p>に与えられる可能性が増えることに繋がると思うので大賛成ではあるが、「いつでも」そのサービスが使えるようにならなければ定着しないと考えている。採算面でも厳しいこともあるかもしれないが、高水準のサービスをどう維持していけるかについて考えていくことができれば良いと思う。不安、不便を感じている人を救うためには、どう多くの人を巻き込んで支持されるものにしていくか、サービスの維持または向上が可能なレベルで継続できるようにするためにはどうすべきか、が常に意識できていれば良いと感じる。私を含めた健常者と言われる自家用車を使った移動で現状不便を感じていない人にとって、これは良い政策だと思えるようなスーパーシティであってほしい。</p>	
	<p>イーアスつくば、イオンモールつくば、ララガーデン、クレオスクエアなど大型商業施設も多いので、買い物難民対策などで連携すれば便利だと思う。</p>	
	<p>世界では環境問題が注目され、SDGs 達成が目標となっているが、そうした視点からの取組が展示の中で少なかった。今後はこうした点に注目すべきか。</p>	
	<p>これからの時代、スーパーシティを名乗るからには SDGs の達成等「環境」のキーワードは盛り込むべきと思う。例えば生活に密接に関係ある、一般市民にできることだけでも、ゴミ削減とか、リサイクル推進などあげられると思う。その意味で、展示の中では、生分解性プラスチック「P Life」や環境型食器「E dish」は興味深い。</p>	
	<p>企業の提案内容を良く吟味してから始めるようにしてほしい。一度、東／西大通の北の端から南の端まで、夜、自転車で走ってみてほしい。どれだけ危ないか。街灯増やしたり、道の穴塞いだり、木の根でデコボコなの</p>	

	<p>何とかして欲しい。そうしたことをこまめに迅速にやっていく事の方がおろそかになってしまうなら、何を言われても信じられない。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 中心部の交通、移動の不便さ、もっと高頻度にバスが運行されれば（水戸のように）</li> <li>• 高齢者をターゲットにしたサービスを考えるケースが多いが本当にサステナブルなのか。家族に頼ってサービスが使われないケースが多い。もっと若い人もターゲットに（東京通勤層）</li> <li>• 歩いてまわれる街づくりになっていないから、活気が生まれない。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動運転パーソナルモビリティは実現してもらいたい。外出しやすくなる。高齢者は外出しにくくなり、結果的に認知症につながっている。</li> <li>• 病院は専門が細分化しすぎていて分かりづらい。オンラインで調べられると使いやすい。</li> <li>• 自分のかかりつけ医が分からない。</li> <li>• 自分のPHRを保有できることは良いこと。医者にかかりやすくなる。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小田地域づくりに関わっている。地域での支え合い体制をつくろうと動いているので、積極的に連携していけたら良いと思った。</li> <li>• スーパーシティとして、住民からの意見を聞くときに、行政へ住民側からアクセスするのではなく、AI等活用してネット上に落ちている意見も自動で収集してまとめるような機能がつくれると良いと思う。</li> </ul>	
	<p>今回は小田地域がスーパーシティの選定を受けるということで、お話を伺った。選定された場合どのような連携できるか楽しみである。</p>	
	<p>小田小交流プラザと社会福祉協議会の協</p>	

	同で地域づくり（防犯・防災・福祉の総合）を始めているので、ぜひ協力させて欲しい。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>カスミの移動スーパーに顔認証がつくと、買い物が楽になると思う。</li> </ul> 荃崎内でも格差がある。市内隅々まで利便性を上げて欲しい。	
	スーパーシティの実現に向け、ご協力させていただきたい。よろしくお願いします。	
	プロパンガスの料金に偏りがある。賃貸なので、自由に選ぶことができない。（高い。1人暮らしで6,000円/月。）	
	構想の内容については、全てをいっぺんにできるものではないと思うので、どれからどのように進めていきたいのか、スケジュール案を示して欲しいと思う。そうでなければ、遠い未来の話なのか、数年後の話なのかが区別できず、構想内容に対する自分の立ち位置がイメージできない。自分としては、進めやすい構想から始めた方がよいのではないかと思う。	
	筑波大学など、学術機関の知恵を活用して、市民の還元する取組についてはつくばならではのもので、歓迎したい。目指すゴールや内容を様々な立場や年齢の方々に伝えるコミュニケーションや発信方法は、工夫していくとよいのではないか。若年層は、SNS、アニメ、マンガ。高齢者は対面での密な会話や写真など、うまく活用されたい。	
	つくば市ならではの可能性を感じる。40年住んでいるが、交通インフラの整備以外にもそのくらいかかっているもので、長期的視野を持って、利便性、快適性、省エネ、エコなどの両立のため、最小公倍数を目指したプランがあると良い。小学校のアイデアも参考になると思う。	—
区長等との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のために自分にできることをやっていきたいと思っている。</li> <li>宝陽台が対象地域となることについて</li> </ul>	

(宝陽台)	は歓迎。句会の推進体制の中にもスマートシティ担当を置きたいと思っている。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者であっても、好奇心旺盛な人も多く、機器が普及されれば上手く活用していけると思う。</li> </ul> <p>画面が大きいので、スマートフォンよりもタブレットの方が使いやすいと思う。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルインフラの操作について、気軽に相談できる体制は必要。</li> </ul> <p>若い人でなくても、デジタルインフラに精通している人はいると思う。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の自治会広報誌の全戸配布や公民館の施設管理（予約管理、鍵の受渡し、利用料の集金作業）の負担がかかっている。</li> <li>市のサーバー上に自治会ホームページを作成し、そこでイベントや住民の取組などの情報発信ができればと思っている。牛久市ではそれができている。</li> <li>高齢者の見守りについては需要が高い。独居高齢者も多く、2020年には孤独死が1件発生した。</li> <li>交通の便が非常に悪い。バス停まで非常に遠く、団地内につくバスは通っていない。牛久市の「かっぱ号」が循環している。</li> <li>小学校の学区について、すぐ近くに牛久第2小があるが、そこには通えず、遠く離れた荃崎第3小への通学を余儀なくされている。身近にも、子供に同じ思いをさせたくないとの理由で学園の森に転居してしまったという人がいる。子供が集まらない。</li> </ul>	
	この地域は区会加入率が非常に高いので、区会役員が前に立って、地域をまとめる意義があると思う。	

<p>区長等 との意 見交換 (小田)</p>	<p>せっかく小田を選んでもらったのであれば、地域をよくするために動いていきたい。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者は特にスマートフォンに対する抵抗感がある。スマートフォンよりもタブレットのほうがいい。</li> <li>● 馴染み深いテレビを活用してサービスを提供したほうが利用者も増えるのではないか。小田には通っていないが、ケーブルテレビを利用することも一案。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電動車いすに乗れる元気な高齢者ばかりでなく、ベッドから起きることすらできない高齢者もいる。もっと小田の実態に照らし合わせたサービス内容にしてほしい。</li> <li>● 小田小学校の跡地を交流プラザとして活用しているが、まだまだ賑わいが足りない。</li> <li>● 小田地域を1日中自動運転バスが循環していれば、家に籠っていた高齢者が外にでて、人と交流するきっかけとなるかもしれない。</li> <li>● 高齢者の見守りという意味では、一人で家に籠る高齢者とオンラインで接続し、気軽に友達や孫と交流できるようにすることで、認知症を防止することや新しいデジタルサービスを使ってみようというきっかけにもできるかもしれない。</li> <li>● 観光分野のサービスについて、宝篋山のすぐ麓に無料駐車場があるため、登山客が下山後すぐに帰ってしまい、地域のお店には寄ってもらえていない。小田の宝篋山や歴史的建造物を生かすことで、観光客が増</li> </ul>	



	え、地域の商店が活性化されれば、住民も刺激を受けるかもしれない。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>カタカナ言葉を減らすなど、高齢者に配慮した内容にしてもらうといいと思う。</li> </ul>	—



# つくばスーパーサイエンスシティ構想

※前回からの修正箇所は  
赤字で修正

“人々とコミュニティのつながりを力に 人々の多様な幸せ（ウェルビーイング）に貢献するスーパーシティ”



社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」精神のもとで、世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。これにより、市民と市民、市民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する市民中心のスーパーシティを目指す。



## <デジタルインフラ整備>

マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大  
高齢者向けスマホ／タブレット配布、スマホアドバイザー配置

## <先端的サービスの実装>

### 行政

インターネット投票、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用、市民意見収集によるEBPM

### 移動

交通ネットワークの最適化、自動運転車のオンデマンド配車、**搭乗型移動支援用具**、送迎バスシェアリング

### 物流

自動配送ロボットや**小型無人機（ドローン）**等による配送最適化

### 医療 介護

医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化、遠隔医療、学校の体調管理デジタル化

### 防犯 防災 インフラ

無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、**防災・災害情報基盤**、地域防犯システム

## データ連携基盤

<民間事業者等のコミット>  
つくばスマートシティ協議会（産学公40機関加盟）と連携

<大胆な規制・制度改革>  
公職選挙法、住民基本台帳法、道交法、薬機法等

## <住民等の意向の把握>

住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、市民アンケート、市有識者会議、パブリックコメント

<住民等の個人情報の適切な取扱い> つくば市個人情報保護条例等、つくば市プライバシーポリシー等、市役所職員必須のデータ利活用研修、つくばスマートシティ倫理原則

先端的サービスに導出

## 成功事例を他地区に展開



全体統括者  
(アーキテクト)  
筑波大学 鈴木健嗣 教授

## <研究成果の社会実装>

つくばの研究機関から生み出される研究成果を、実証実験を経て社会実装。

### ③ 社会実装



企業、市

### ② 実証実験



企業、市

### ① 基礎・応用研究

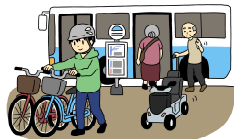


大学・国研、企業  
(市内約150機関)



# スーパーシティ基本方針案概要

## つくばスーパーサイエンスシティ構想 “Empowered Citizens and Inclusive Communities”



「誰一人取り残さない」包摂の精神のもとで、世界トップレベルの科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。  
これにより、市民と市民、市民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する市民中心のスーパーシティを目指す。



### <デジタルインフラ整備>

マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大  
高齢者向けスマホ配布、スマートフォンアドバイザー（仮称）配置

### <先端的サービスの実装>

#### 行政

インターネット投票、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用、市民意見収集によるEBPM

#### 移動

交通ネットワークの最適化、自動運転車のオンデマンド配車、パーソナルモビリティ、送迎バスシェアリング

#### 物流

自動配送ロボットやドローン等による配送最適化

#### 医療 介護

医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化、遠隔医療、学校の体調管理デジタル化

#### 防犯 防災 インフラ

無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、防災・災害情報プラットフォーム、地域防犯システム

データ連携基盤

### <民間事業者等のコミット>

つくばスマートシティ協議会（産学公40機関加盟）と連携

### <大胆な規制・制度改革>

公職選挙法、道交法、オンライン診療の適切な実施に関する指針等

<住民等の意向の把握> 住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、市民アンケート、市有識者会議、パブコメ、市長マニフェスト

<住民等の個人情報の適切な取扱い> つくば市個人情報保護条例等、つくば市プライバシーポリシー等、市役所職員必須のデータ利活用研修、つくばスマートシティ倫理原則

先端的サービスに随時導出



アーキテクト（全体統括者）  
筑波大学 鈴木健嗣 教授

### <研究成果の社会実装>

つくばの研究機関から生み出される研究シーズを、実証実験を経て社会実装。

#### ③ 社会実装



企業、市

#### ② 実証実験



企業、市

#### ① 基礎・応用研究



大学・国研、企業  
（市内約150機関）

# スーパーシティで目指すつくば市の未来

科学と技術  
を人々へ

安心と活力  
を人々へ

信頼と支援  
を人々へ

移動の自由と  
健康な自立を

持続可能な社会を

人生の段階を支える  
行政サービスを



人々の幸せ（ウェルビーイング）に貢献するスーパーサイエンスシティ

# 『オンラインでいつでもどこからでも選挙の投票を』

## つくば市が抱える問題

- 投票所までの移動手段がない。公共交通で市内全域を網羅できておらず、自家用車がないと移動が困難である。
- 仕事や学校があり投票に行く時間がないなど、時間的、場所的な制約を受けており、投票率向上を妨げる一因となっている。



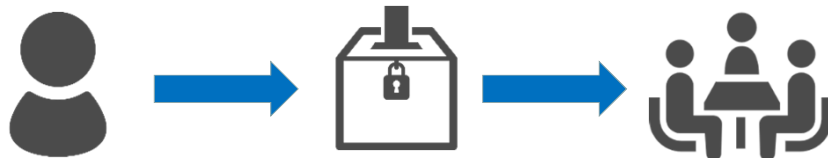
## 目指す未来と取組内容

- 投票における時間的、距離的負担を大きく軽減でき、移動が困難な方・忙しい方でも投票可能となることで、投票率向上も期待される。また、投票所受付を最小化、投票結果集計も迅速化でき、職員の負担軽減とコストの削減につながる。



## 先端的サービス: インターネット投票

### 【従来の投票】



- ✓ 時間の制約 (投票所の開設時間)
- ✓ 距離の制約 (決められた投票所)
- ✓ 移動の制約 (投票所内外のバリアフリー)
- ✓ 財政負担 (場所と人の確保)
- ✓ 人的負担 (立会・残業・深夜労働)

### 【インターネット投票】



制約と負担を軽減し、いつでもどこからでも投票可能に



### 規制の特例措置

- 公職選挙法第38条における立会人
- 第44条における投票所での投票
- 第45条における投票用紙の交付
- 第46条における自書・投函
- 第68条における無効投票

# 『行政情報をいつでもどこでも誰でも使いやすく』

## つくば市が抱える問題

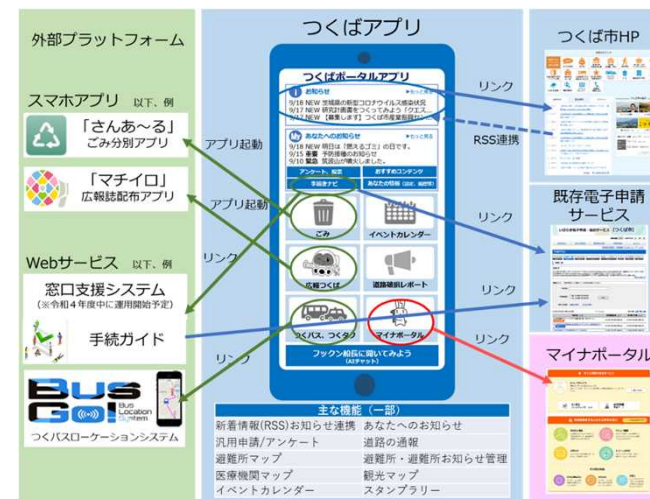
- ホームページなどに分散する情報にたどりつきにくい。関連部署が多く、それぞれバラバラに掲載されていることが多い。
- 自分が受けられるサービスを必要なタイミングに知ることが難しい。届出や手続をしたとき、一緒に行える手続が分かりにくい。
- 外国人の言語の壁による情報格差が発生。日本人と同じ情報が得にくい。



## 目指す未来と取組内容

- 分散する行政情報を集約し、多言語で表示するポータルサイトアプリを構築する。市民の希望(オプトイン型)により、属性情報に基づき個別化された情報発信も行う。さらに、マイナンバーカードを活用し、行政への様々な申請・手続をアプリ上から行えるようにする。

## 先端的サービス: 多言語ポータルアプリ



## 規制の特例措置

- 行政手続については、押印、添付書類の撤廃、対面規制の緩和など

大学生 Aさん



子育て、共働き Bさん



外国人研究者 Cさん



アクティブシニア Dさん





## つくば市が抱える問題

- 高齢者の病気療養や要介護の期間が長い。(平均寿命と健康寿命とのかい離)
- 医療と介護の分断によるサービスの空白地帯の存在。

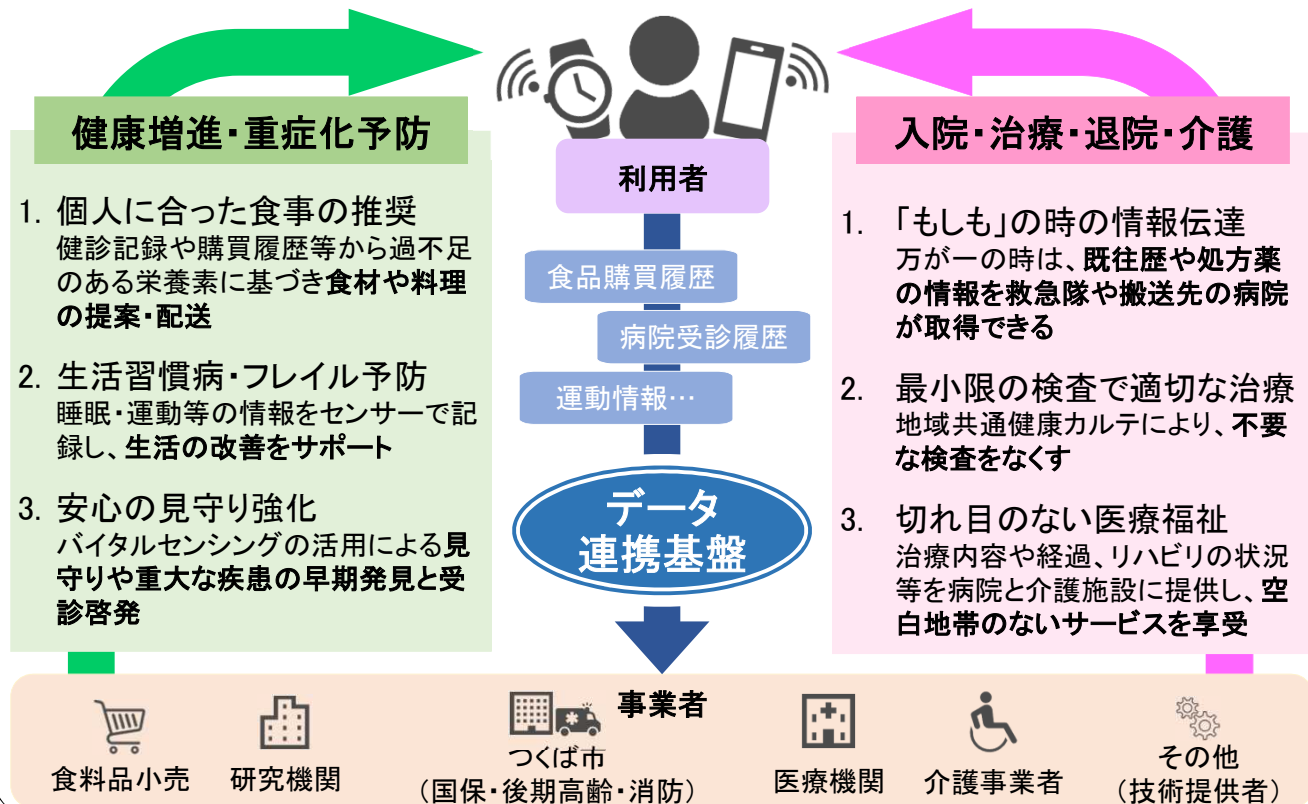


## 目指す未来と取組内容

- 運動や食料品購買履歴などの生活習慣情報や健康診断結果などの医療情報を本人の希望で事業者等に共有化できる仕組みの構築。
- 各事業者は、共有されたデータを活用して、健康増進・生活支援・医療・介護等の個別サービスを提供。救急搬送時にも活用する。



## 先端的サービス：医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化



個人に合った食材が自動で配送され、顔認証で本人確認の上、受け取るイメージ▼



▲ウェアラブル・デバイスで日々の運動情報やバイタルデータを送信するイメージ

### 規制の特例措置

- 診療情報の提供に関する指針  
診療情報等の開示方法は、医療機関の管理者が指定できることになっており、個人の希望により電子データでの開示ができるようにする必要がある。
- 個人情報保護法施行令9条  
個人情報の開示は、書面交付が基本で、例外も請求者の同意の下、取扱事業者が決定。

## つくば市が抱える問題

- 自宅から病院が遠く、高齢だが自分で運転して行かなくてはならない。
- 感染症予防の観点から、病院を受診しづらい。

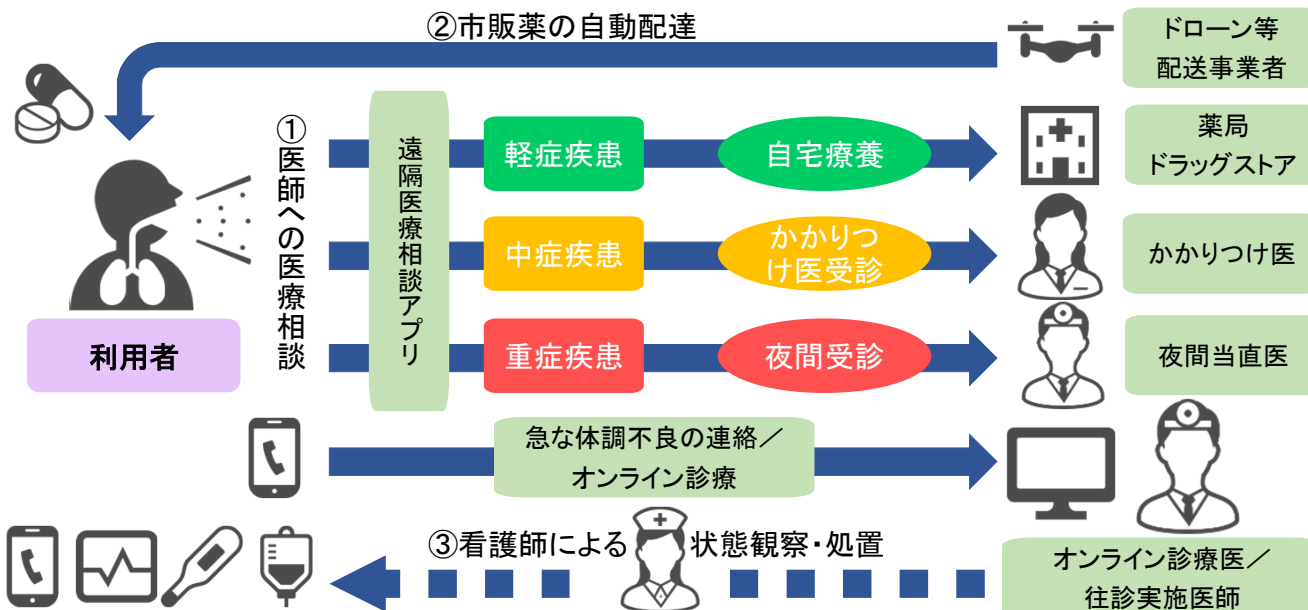


## 目指す未来と取組内容

- スマートフォン等で医師に医療相談、市販医薬品の購入、医療機関の受診を簡便に行える仕組みを構築する。
- 看護師等の医療従事者が患者に付き添うことで、質の高い遠隔診療も推進する。

## 先端的サービス:遠隔医療の推進

- ①スマートフォンアプリを通じた医師への医療相談による医療トリアージ
- ②(自宅療養の場合)医師に推奨された市販薬をドローンや自動配送ロボット等を活用して自動配達
- ③看護師等の付き添いで質の高い遠隔診療を実現



### 規制の特例措置

- 運送業許可に関する規制  
薬の配送には、一般市民等による代理購入・配送が現実的だが、現行法では報酬の受け取りを目的とした配送には運送業許可が必要。
- 小型無人機や自動配送ロボットに関する規制  
航空法や道路交通法等、小型無人機(ドローン)の飛行や自動配送ロボットの公道走行に関する規制は多い。

## つくば市が抱える問題

- 郊外の買い物が困難(特に移動が困難な住民)
  - 近くにお店がない。
  - 重い荷物を運ぶのが大変。
  - 欲しい時にすぐ荷物が届かない。



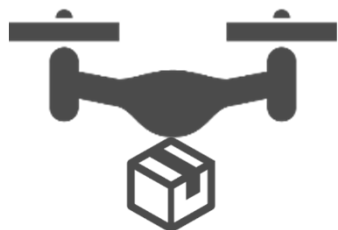
## 目指す未来と取組内容

- 郊外であっても都市部と変わらない利便性の高い暮らしに資する。また、担い手が不足している配送ドライバーの補完の役割も果たすことが可能となる。



## 先端的サービス: 自動配送ロボットやドローンによる買い物の利便性の向上

### ドローン配送



#### 自動飛行で配送し帰還

- 生活必需品の配送
- 医薬品等の配送
- 災害時の緊急物資輸送



中山間地域等の過疎地

### 自動配送ロボット



#### 完全無人で荷物配送

- 食料品や日用品の配送
- 非接触による配送



郊外のベッドタウン



### 規制の特例措置

- ドローンに関する法規制(航空法、電波法など)
- 自動配送ロボットに関する法規制(道路交通法など)

必要な時に欲しいものが届くという先進的な買い物体験

# 『必要な時、必要な場所へあらゆる移動手段を』

## つくば市が抱える問題

- 公共交通で市内移動するのが不便
  - ・ 自家用車がないと、買い物や通院など日常生活を送りづらい
- 高齢者、障がい者を支える移動手段が不足
  - ・ ひきこもりがちになり社会参加が低下、送迎など家族の負担、交通事故の増加



## 目指す未来と取組内容

- 自動運転車によるオンデマンド乗合サービス
  - ・ 希望の乗降場所、時間等に応じて乗降できる自動運転車による乗合サービス
- パーソナルモビリティのシェアリング
  - ・ 一人乗りのコンパクトな車両を用いた新たな近距離移動サービス

## 先端的サービス：交通ネットワークの最適化とパーソナルモビリティ導入・自動運転車のオンデマンド配車

乗りたい時に行きたい場所まで  
自由に移動  
自動運転車によるオンデマンド乗合サービス



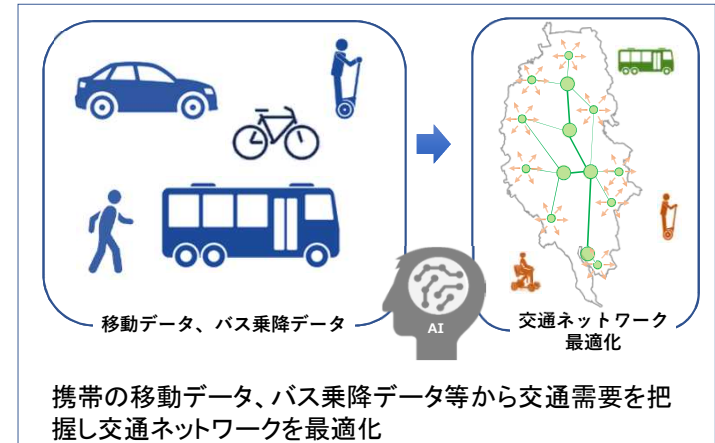
つくばMaaS  
(ポータルアプリ機能)



高齢者や障がい者などの移動をサポートする  
パーソナルモビリティの  
シェアリング

多様なデータと連携することで、最適な配車、安全な自動運転、利便性の高いサービスを提供

### データ連携基盤



携帯の移動データ、バス乗降データ等から交通需要を把握し交通ネットワークを最適化

### 規制の特例措置

- 乗合バス事業者の運行計画及び運賃等の許可申請要件の緩和(柔軟な変更)
- 規格外モビリティの公道走行
- 道路使用許可の要件緩和
- モビリティの自動運転(保安要員の不要化、無人走行)

【画像提供】

NTTドコモ株式会社、CYBERDYNE株式会社、筑波大学

## 令和 2 年度（2020 年度）第 4 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

議事（1）令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

	意見等	対応等
1	<p>アンケート行う場合、人口に対して何パーセントという目標サンプリング数を最初に設定したほうが、より多くの市民の意見を集められるのではないか。</p> <p>また、当初設定していた場所で意見を集めることが難しい場合には実施場所を変更するなど、柔軟に対応すると良いのではないか。</p> <p>数値目標を設定し、それを達成すべく適切な収集方法と柔軟な対応をとることが求められるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>■ 提言の追加を行わない</p> </div>
2	<p>手法等によっては、数値目標の設定が足枷となる場合がある。対象を検討した上で設定していかなければ難しいのではないか。</p>	
3	<p>何にでも数値目標を設定すると、それを達成することが目的となり、本来の趣旨と離れてしまう可能性がある。</p>	
4	<p>市民委員については審議会等ごとに小論文や面接等により選考を行うか、無作為抽出による委員等候補者名簿から依頼を行っているが、市民委員をやってみようとして手を挙げた人たちを登録、データベース化し、その中から各審議会等に参加いただくという人選の方法もあるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>■ 提言に追加する</p> <p>5 ページ、「5 提言」</p> <p>③の 2 つ目</p> <p>参加を希望する市民の情報をもっと積極的に活用するため、リストを作成しても良いのではないか。なお、その際はある程度時限的な登録とする。</p> </div>

5	<p>市職員は生活者でもあり、市民としての考え方や立場と業務との板挟みになり、大変かと思う。もう少し職員の本音を施策にうまく反映できると、市民よりの発想が出てくるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言に追加しない          提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>
6	<p>体裁について、なぜ①～③の三点に絞って検討しているのかというところの言及がない。3の「現状と課題」か4の「検討」で補足すると読みやすいのでは。</p>	<p><b>【事務局提案】</b></p> <p>案1：「現状と課題」に若者の参加率が低いというバックデータを載せる。</p> <p>案2：検討の書き方として、大前提は解説しないが、「主に審議会等の市民委員の参加について協議を行った。この協議を踏まえ、①～③の特にこの三つについて、つくば市における～」とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■提言書を修正する          3ページ、「4 検討」</p> <p>事務局案2のように修正。</p> </div>
7	<p>5の「提言」①の三つ目で希望分野に関する選択肢の追加を記載しているが、現状を知らずに提言書を読む人がいると思うので、現状と変更後の内容について記載したほうが良いのでは。</p>	<p><b>【事務局補足】</b></p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■提言書の修正は行わない          提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div>

8	<p>5の「提言」①の最後の文について、ジェンダーバランスや居住地等に偏りがないよう配慮するという一文を追加するという意味がわからない。必ずしも偏りがないということだけを追求する必要はなく、特定の層から選ぶ必要がある場合もあるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言を修正する 4 ページ、「5 提言」 ①の4つ目</p> <p>必ずしも偏りがない状態にする必要はない。</p> </div>
9	<p>仕事を持っていると昼間の会議は休暇を取得しなければならない。裁判員制度と同様に市の市民委員として会議に参加する場合は特別休暇を使えるというような制度があると良い。つくば市から会社や研究所等に口添えしてもらえるとありがたい。</p>	<p><b>【事務局補足】</b></p> <p>対職場で審議会等に出席するために休暇を取ることを正当化できるようにということであれば、例えば、委員から希望があった際、審議会等の担当課等から市民委員の職場に配慮していただくための文書を出すことはできる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言に追加する 4 ページ、「5 提言」 ②の2つ目 ③の7つ目（再掲）</p> <p>審議会等の市民委員として参加しやすい職場環境のために広報、喚起する。</p> </div>
10	<p>提言書を一般の人たちが読んだ場合にわかりにくい言葉があるため、付記などの記載があると良いのではないか。</p> <p>また、自分が市民委員に参加するようになった場合には周囲の誘いや口コミがきっかけになると思う。市の広報で審議会等のコラムのようなものがあると、市民の目に触れる機会も増え、参加のハードルも下がるのではないか。</p>	<p><b>【事務局補足】</b></p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p>

		<p>■提言書の修正は行わない      提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p>
11	<p>対象者の絞り込みということについては、AIやビッグデータを利用し、協議事案等に対して適切な人を選定するというのも方法の一つとして考えられる。</p>	<p>■提言に追加しない      提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p>

議事（2）スーパーシティ基本方針について

	意見等	スマートシティ戦略室 回答等
1	<p>対象地域が4つということだが、それ以外の地域が取り残されるのではないか。</p>	<p>3月末の内閣府に対する申請の段階では、4地域に絞り、進めていきたいと考えているが、将来的には横展開をして、これらの地域だけが特別にはならないようにする。</p>
2	<p>年配の方がスマートフォンを使うことには相当困難が伴うのではないか。タブレットのような大きなもの、簡単に使える形にしなければ難しいのではないか。例えば、コミュニケーションロボットや見守りAIロボット当を活用したほうが、効果が高いのではないか。</p>	<p>御意見として承る。</p>
3	<p>高齢者に生きる喜びを与える、回復して成長させる（レジリエンス）というような形の宣言も必要ではないか。</p>	<p>御意見として承る。</p>
4	<p>決済について、地域デジタル通貨を入れ、様々なサービスの支払いができる構想も取り入れるといいのではないか。さらに、イニシャルコインオフ</p>	<p>御意見として承る。</p>



	<p>ァリング(IC)、仮想通貨なども入れて資金調達を行い、市民に使ってもらうという次元まで伸ばしてもいいのではないか。</p>	
5	<p>先進的サービス実装には含まれていないが、教育も重要である。先進的なことも大切だが、新型コロナウイルス感染症対策で実施されたオンライン授業等で困っている人もいる。そのような点についても盛り込んでもらいたい。</p>	<p>御意見として承る。</p>
6	<p>4つの地域に先進サービスを実装とあるが、5つの項目全てを実装していくのか、それとも順を追って進めていくのか。</p>	<p>各地区で全項目を行うということとは考えていない。地区ごとに優先順位をつけて実施する。一方で、各地域の進捗を見ながら、ある地域では全項目を実施するということもあるかと思う。</p>
7	<p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないか。</p> <p>また、タブレットの配布というよりも、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくるほうが良いのではないか。</p>	<p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということとは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないか。</p>
8	<p>この方針はおおよそ何年で達成するものなのか。</p>	<p>順次実施していくが、2030年に資料に書いてあるようなことが概ね全て達成できる。</p>
9	<p>認定されれば国の補助金がでると思うが、予算はどうなっているのか。どれだけ市の予算をここに投入するのか。</p>	<p>金額は未定。</p> <p>採択された場合、内閣府から来年度に一億円+<math>\alpha</math>が配られることになっているが、資料に記載してあることは</p>

		<p>一億円では達成できないため、色々な方法を組み合わせる必要がある。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①既存の予算を振り分けて活用する。</li> <li>②民間サービスの延長線上で行政が負担することなく提供されるサービスもある。</li> <li>③利用料をいただく。</li> <li>④ソーシャルインパクトボンド(公共的な目的に賛同した人たちが少しずつ出資し、ビジネスとして成功した場合は出資した金額に対して投資分の利益が得られる。住民も含めて少額から出資できる。)</li> </ul>
10	後日、資料に関する意見を市に送付することは可能か。	可能。期限はとくに設けない。
11	国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。	スーパーシティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。
12	スーパーシティが採択された場合に専従の人を雇う予定はあるのか。	新規で雇用するかは不明だが、来年度は専任をもう少し増やしたうえで、関係課等の職員にも兼任という形で入ってもらう予定でいる。
13	スマートシティ協議会について、官と民の役割分担、費用、経費、情報の取り扱いの整理はどの程度できているか。	<p>住民の情報は参加する事業所が自由に使えるわけではなく、市役所が管理するということが大前提となり、企業から預かる情報も自由に共有されるわけではない。企業同士でコラボレーションとなった場合には、協議をした上でお互いにどのような技術を持っているのかなどを共有することは行ったほうが良いと思う。</p> <p>また、個人の人がサービスを受けるときに複数の事業者間でその人のデータが共有されるということがある。</p>

		<p>データはデータ連携基盤というところで共有するが、そこには参加している事業者が誰でもアクセスできるわけではなく、サービスを受けたいと思う住民が同意をした場合に限り、限定された事業者間で共有される。セキュリティの担保もできるように考えている。</p>
14	<p>最終的にはマイナンバーで紐づくような形で管理されるのか。</p>	<p>マイナンバーの普及の度合いにもよる。マイナンバーが普及している前提であれば、マイナンバーを活用することで様々な共有を行いやすくなるが、マイナンバーで全て紐づけていくということが適切かどうかはわからないので、その辺りも引き続き考えていきたい。</p>